

当院の CT 検査における被ばく

OCT 検査とは？

X 線を体に照射すると、組織の組成等の違いにより X 線の減弱度合いに違いが生じます。

CT 検査は、その違いを利用してコンピュータ処理を行い、画像を構成しています。

CT 検査そのものに痛みはありませんが、放射線被ばくをとまなう検査となります。

OCT 検査にともなう放射線被ばくについて

放射線の体に及ぼす影響は、100 ミリシーベルト(mSv)未満であれば、発がん率や遺伝的な影響に差はないと言われており、通常の CT 検査では 100 ミリシーベルトを超えることはありません。

当院における CT 検査は、医療情報被ばく研究情報ネットワーク(J-RAIME)が提案する診断参考レベル(DRL s 2020)を参考に被ばく線量低減に努めています。

○当院の CT 検査における標準的な被ばく線量

標準体型の成人	診断参考レベル (DRLs2020)			当院 CT の 2023 年度平均		
	CTDIvol (mGy)	DLP (mGy・cm)	実効線量 (mSv)	CTDIvol (mGy)	DLP (mGy・cm)	実効線量 (mSv)
頭部単純ルーチン	77	1350	2.84	69.9	1510.8	3.17
副鼻腔	表記なし			15.3	269.4	0.57
胸部 1 相	13	510	7.14	9.0	394.5	5.52
低線量 (胸部/腹部)	表記なし			1.6/7.0	69.3/403.9	0.97/6.06
胸部～骨盤 1 相	16	1200	18.00	11.1	809.6	12.14
上腹部～骨盤 1 相	18	880	13.20	16.2	861.3	12.92
肝臓ダイナミック	17	2100	31.50	20.4	927.6	13.91
冠動脈	66	1300	19.50	当院では検査を行っていません		
急性肺血栓塞栓症 深部静脈血栓症	14	2600	39.00	4.9	1404.9	21

